

14時30分解禁

令和元年5月 全国百貨店売上高概況

令和元年6月21日

I. 概況

1. 売上高総額	4,443億円余
2. 前年同月比	-0.8% (店舗数調整後/2か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	78社 215店 (平成31年4月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,388,295㎡ (前年同月比:-2.9%)
5. 総従業員数	66,476人 (前年同月比:-5.2%)
6. 3か月移動平均値	10-12月 0.0%、11-1月 -1.3%、12-2月 -1.1%、 (店舗数調整後) 1-3月 -0.9%、2-4月 -0.2%、3-5月 -0.6%

[参考] 平成30年5月の売上高増減率は-2.0% (店舗数調整後)

【特徴】

5月の売上高は0.8%減と2か月連続のマイナスとなった。改元による祝賀ムードや10連休となったGWのほか、気温上昇に伴う夏物需要の盛り上がり等のプラス要素があった半面、連休後の反動や改装による面積減などから、商況は総じてまだら模様の推移となり、前年実績には僅かに届かなかった。インバウンドや高額品は引き続き好調だった。

顧客別では、インバウンド(シェア7.0%)は8.0%増の309億円と4か月連続プラス。購買客数も3.7%増の47.4万人となった。一方、国内市場(シェア93.0%)は1.4%減とマイナスした。

地区別では、10都市(0.0%)の内、これまで好調を維持してきた3都市(名古屋、大阪、福岡)に加え4都市(札幌、仙台、横浜、広島)もプラス転換。地方(10都市以外の地区:2.5%減/25か月連続)は、前月より1.1ポイント改善したものの苦戦が続いている。

商品別では、雑貨(4.0%増)が4か月連続プラス。細分類の化粧品(6.1%増)は、引き続き国内外顧客共に好調で、UV対策商品、スキンケアなどが高伸した。高額品も、ラグジュアリーブランドや時計、宝飾を中心に活況が続いている。

食料品(0.8%減)は3か月ぶりにマイナスに転じた。改元や母の日等のアニバーサリー需要を背景に、菓子や弁当、惣菜などは好調だったが、生鮮食品が苦戦し、前年には届かなかった。また、衣料品(2.5%減)と身のまわり品(1.2%減)は、天候与件で一部夏物衣料や晴雨兼用傘、帽子などは動いたもののトータルではマイナスした。

【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「5月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇北・東・西日本で日照時間がかかり多く、気温がかかり高かった。降水量は、西日本日本海側でかなり少なく、北・東日本日本海側と西日本太平洋側で少なかった。

(2) 営業日数増減 30.8日(前年同月比 ±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 12日(// +2日/祝日2日増)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数117店舗)

①増加した:40店、②変化なし:37店、③減少した:40店

(5) 5月歳時記(GW、母の日)の売上(同上/有効回答数78店舗)

①増加した:7店、②変化なし:49店、③減少した:22店

全国百貨店 売上高速報 2019年5月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	444,318,576	100.0	-0.8 (-1.4)
10都市	316,126,165	71.1	0.0 (-0.6)
札幌	12,112,435	2.7	0.8
仙台	5,462,583	1.2	0.7
東京	122,841,110	27.6	-1.6
横浜	27,081,406	6.1	0.5
名古屋	27,858,137	6.3	1.4 (-4.4)
京都	18,255,480	4.1	-1.2
大阪	66,473,173	15.0	2.0
神戸	10,640,867	2.4	-1.8
広島	8,894,527	2.0	0.5
福岡	16,506,447	3.7	1.6
10都市以外の地区	128,192,411	28.9	-2.5 (-3.4)
北海道	955,117	0.2	3.9 (-19.0)
東北	6,265,672	1.4	-3.0
関東	57,001,082	12.8	-3.9
中部	10,233,740	2.3	-1.3
近畿	17,438,220	3.9	0.0
中国	9,517,283	2.1	-3.4
四国	7,013,881	1.6	-0.3
九州	19,767,416	4.4	-1.7 (-6.1)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	444,318,576	100.0	-0.8 (-1.4)
紳士服・洋品	29,497,554	6.6	-3.5 (-4.1)
婦人服・洋品	86,468,263	19.5	-1.6 (-2.3)
子供服・洋品	10,938,389	2.5	-4.2 (-4.4)
その他衣料品	8,990,742	2.0	-5.9 (-7.1)
衣 料 品	135,894,948	30.6	-2.5 (-3.2)
身のまわり品	61,432,058	13.8	-1.2 (-1.7)
化粧品	48,537,765	10.9	6.1 (5.6)
美術・宝飾・貴金属	29,980,749	6.7	7.3 (6.0)
その他雑貨	15,212,394	3.4	-7.4 (-7.7)
雑 貨	93,730,908	21.1	4.0 (3.3)
家 具	4,811,559	1.1	-0.3 (-1.2)
家 電	1,199,387	0.3	-11.2 (-11.2)
その他家庭用品	12,189,485	2.7	-8.3 (-9.7)
家 庭 用 品	18,200,431	4.1	-6.5 (-7.7)
生 鮮 食 品	21,071,745	4.7	-3.1 (-4.0)
菓 子	28,527,592	6.4	0.5 (0.1)
惣 菜	26,497,737	6.0	0.2 (-0.2)
その他食料品	32,441,585	7.3	-1.1 (-1.7)
食 料 品	108,538,659	24.4	-0.8 (-1.3)
食 堂 喫 茶	12,411,625	2.8	-0.4 (-0.9)
サ ー ビ ス	4,952,537	1.1	0.7 (-0.0)
そ の 他	9,157,410	2.1	-6.2 (-6.6)
商 品 券	8,346,981	1.9	-10.2 (-10.4)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -0.0% (店舗数調整後/2か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -2.5% (店舗数調整後/25か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-0.0	-0.0	2か月連続マイナス
札幌	0.8	0.0	2か月ぶりプラス
仙台	0.7	0.0	2か月ぶりプラス
東京	-1.6	-0.4	2か月連続マイナス
横浜	0.5	0.0	5か月ぶりプラス
名古屋	1.4	0.1	4か月連続プラス
京都	-1.2	-0.1	3か月連続マイナス
大阪	2.0	0.3	4か月連続プラス
神戸	-1.8	-0.0	7か月連続マイナス
広島	0.5	0.0	7か月ぶりプラス
福岡	1.6	0.1	3か月連続プラス
10都市以外の地区	-2.5	-0.7	25か月連続マイナス
北海道	3.9	0.0	2か月ぶりプラス*
東北	-3.0	-0.0	3か月連続マイナス*
関東	-3.9	-0.5	11か月連続マイナス
中部	-1.3	-0.0	11か月連続マイナス
近畿	-0.0	-0.0	4か月ぶりマイナス
中国	-3.4	-0.1	14か月連続マイナス*
四国	-0.3	-0.0	3か月連続マイナス
九州	-1.7	-0.1	3か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が4か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が41か月連続、衣料品が11か月連続、身のまわり品が2か月連続、食料品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が50か月連続、美術・宝飾・貴金属、菓子が4か月連続、惣菜が2か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.8	—	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	-3.5	-0.2	11か月連続マイナス
婦人服・洋品	-1.6	-0.3	3か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.2	-0.1	11か月連続マイナス
その他衣料品	-5.9	-0.1	43か月連続マイナス
衣料品	-2.5	-0.8	11か月連続マイナス
身のまわり品	-1.2	-0.2	2か月連続マイナス
化粧品	6.1	0.6	50か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	7.3	0.5	4か月連続プラス*
その他雑貨	-7.4	-0.3	5か月連続マイナス*
雑貨	4.0	0.8	4か月連続プラス
家具	-0.3	-0.0	4か月ぶりマイナス
家電	-11.2	-0.0	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-8.3	-0.2	38か月連続マイナス
家庭用品	-6.5	-0.3	41か月連続マイナス
生鮮食品	-3.1	-0.2	7か月連続マイナス*
菓子	0.5	0.0	4か月連続プラス*
惣菜	0.2	0.0	2か月連続プラス*
その他食料品	-1.1	-0.1	2か月連続マイナス*
食料品	-0.8	-0.2	3か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-0.4	-0.0	25か月連続マイナス
サービス	0.7	0.0	3か月ぶりプラス
その他	-6.2	-0.1	2か月連続マイナス
商品券	-10.2	-0.2	99か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

令和元年5月 東京地区百貨店売上高概況

令和元年6月21日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 228億円余
2. 前年同月比	-1.6% (2か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-1.0%(91.1%) : 非店頭-7.0%(8.9%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成31年4月対比±0店)
5. 総店舗面積	835,418㎡ (前年同月比:-0.7%)
6. 総従業員数	17,345人 (前年同月比:-4.6%)
7. 3か月移動平均値	10-12月 0.3%、11-1月 -1.2%、12-2月 -1.5%、 1-3月 -1.0%、2-4月 -0.2%、3-5月 -0.6%

[参考] 平成30年5月の売上高増減率は1.3%

【特 徴】

- (1) 5月の東京地区は、新元号にちなんだ祝賀イベントや福袋などの関連企画が盛況だった他、各社実施の集客策も奏功。気温の上昇とともに夏物アイテム、UV関連商品も活発化し、入店客数は0.3%増と19か月連続でプラスした。しかし、売上については、連休後の反動や、改装工事による売場面積縮小も響き、1.6%減とマイナスした。
- (2) 増勢が続く高額品(美術・宝飾・貴金属)では、宝飾、時計が大幅伸長。夏のコスメフェアも好評な化粧品はUV対策やボディケアが売上を伸ばし、雑貨(1.7%増)トータルで4か月連続前年をクリア。食料品(0.2%減/3か月ぶり)は、母の日やGW手土産需要の洋菓子をはじめ、弁当、惣菜、和洋酒、物産展などの食品催事が好調だったが、生鮮食品がマイナスし、全体ではほぼ前年並みとなった。また、下旬の記録的な暑さもあり、ビアガーデンは早くも賑わいを見せている。
- (3) 身のまわり品(1.9%減/2か月連続)は、ラグジュアリーブランドの他、気温上昇に伴い晴雨兼用傘、帽子、サングラスが好調。男性用日傘は二桁の伸びを示す店舗も多く見られた。また、マリッジ・エンゲージリングを含むアクセサリーや、バッグ、スニーカーも動いたが、パンプス、サンダルは不調だった。
- (4) 衣料品(2.2%減/7か月連続)は、ジャケット、ワンピース、カットソー、カジュアルウェアなど夏物衣料が堅調。スーツ、ネクタイなどのビジネスアイテムやニットは伸び悩んだ。
- (5) 6月中間段階の商況は、3.1%減(6/17)で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 6店、②変化なし: 7店、③減少した: 6店
- (3) 5月歳時記(GW、母の日)の売上(同上/有効回答数12店舗)
①増加した: 1店、②変化なし: 8店、③減少した: 3店

東京地区百貨店 売上高速報 2019年5月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	122,841,110	100.0	-1.6
紳士服・洋品	10,396,776	8.5	-5.2
婦人服・洋品	21,079,459	17.2	-0.7
子供服・洋品	2,559,569	2.1	-2.1
その他衣料品	2,045,310	1.7	-1.5
衣 料 品	36,081,114	29.4	-2.2
身のまわり品	18,228,163	14.8	-1.9
化粧品	14,471,608	11.8	1.3
美術・宝飾・貴金属	9,668,243	7.9	7.8
その他雑貨	4,946,338	4.0	-7.5
雑 貨	29,086,189	23.7	1.7
家 具	1,564,047	1.3	12.4
家 電	875,066	0.7	-16.7
その他家庭用品	2,933,017	2.4	-12.7
家 庭 用 品	5,372,130	4.4	-7.4
生 鮮 食 品	3,956,857	3.2	-4.0
菓 子	7,144,179	5.8	0.4
惣 菜	6,239,535	5.1	1.2
その他食料品	8,597,387	7.0	0.1
食 料 品	25,937,958	21.1	-0.2
食 堂 喫 茶	2,805,405	2.3	-5.4
サ ー ビ ス	2,135,504	1.7	1.7
そ の 他	3,194,647	2.6	-17.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,977,391 千円	-8.9
従 業 員 数	17,345 人	-4.6
店 舗 面 積	835,418 m ²	-0.7

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が4か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が9か月連続、衣料品が7か月連続、身のまわり品が2か月連続、食料品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が50か月連続、菓子が9か月連続、美術・宝飾・貴金属が4か月連続、惣菜が3か月連続、家具、その他食料品が2か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.6	—	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	-5.2	-0.5	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	-0.7	-0.1	3か月連続マイナス
子供服・洋品	-2.1	-0.0	8か月連続マイナス
その他衣料品	-1.5	-0.0	3か月連続マイナス
衣料品	-2.2	-0.6	7か月連続マイナス
身のまわり品	-1.9	-0.3	2か月連続マイナス
化粧品	1.3	0.2	50か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	7.8	0.6	4か月連続プラス*
その他雑貨	-7.5	-0.3	4か月連続マイナス*
雑貨	1.7	0.4	4か月連続プラス
家具	12.4	0.1	2か月連続プラス
家電	-16.7	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-12.7	-0.3	11か月連続マイナス
家庭用品	-7.4	-0.3	9か月連続マイナス
生鮮食品	-4.0	-0.1	8か月連続マイナス*
菓子	0.4	0.0	9か月連続プラス*
惣菜	1.2	0.1	3か月連続プラス*
その他食料品	0.1	0.0	2か月連続プラス*
食料品	-0.2	-0.0	3か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-5.4	-0.1	9か月連続マイナス
サービス	1.7	0.0	3か月ぶりプラス
その他	-17.3	-0.5	4か月連続マイナス
商品券	-8.9	-0.2	8か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>